

「構造から考える世界の貧困」

解決策を考えるうえで、以下の側面からそれぞれの解決策を見ていきましょう。

【解決案の分類】

これらの解決法を以下の 5 つの指標から考えましょう。

◆実施される場所

途上国 A で行われるもの 先進国 B で行われるもの

◆責任の所在

個人の責任によって行われるべきもの 政府の責任によって行われるべきもの

◆効果が現れるまでの期間

長期的なアプローチ 今すぐに効果ができるもの

◆効果の大きさ

より広範に影響を与えるもの 小さな影響を与えるもの

◆国際連携の必要有無

途上国 A の努力のみで実現可能なもの 先進国 B の関与が不可欠なもの

【ディスカッション・トピック】

- ・ 途上国内で発生している問題を解決すれば、それで問題解決するのか？
- ・ 汚職の問題は、途上国だけの責任か？ また、汚職さえ解決すれば、問題はすべて解決するのか？
- ・ 先進国に住む人々が勝手に学校や病院を作ってもよいことなのか？
- ・ 先進国から教員や医師を派遣しつづけることは望ましいことなのか？
- ・ 先進国に住む私たちでないとできないことはあるか？
- ・ 世界の貧困を解決するうえで、先進国に住む一人ひとりが行える最も効果的な活動とは何か？